

杏林大学 AP テーマⅢ（高大接続）

平成27年度 具体的な実施計画

- ① 4月 ライティングセンターの本格稼働を開始し、留学に向けたサポート体制を強化させる。
- ② 4月～3月 特設サイトの運営・更新による事業公開を推進し、学内外への事業の周知を図る。
- ③ 4月～3月 「大学教育再生加速プログラム（AP）推進委員会」と「第3次中期計画実行委員会（高大連携推進実行部会）」との連動を開始し、他学部への事業拡大の基盤を整備する。
- ④ 4月～3月 SGH 指定校・SGH アソシエイト・グローバル人材育成取組校等との「杏林 AP ラウンドテーブル」を継続実施する。
- ⑤ 4月～3月 本事業実施に係る「教務的制度の構築」（ライティングセンターと授業の連動、高校生対象大学教養レベルグローバル関連科目設置と実施に向けた学則・履修規程措置、時間割編成、新規科目設置、グローバル関連科目の土曜日開講ならびに夏季・春季休暇集中科目化、アドバンスプレースメントのための学則・履修規程制定等）に着手する。あわせて、教育成果測定に活用する「グローバルルーブリック」「グローバルポートフォリオ」の運用について検討していく。
- ⑥ 5月 アドバンスプレースメントによる単位認定（日英中トライリンガルキャンプ等）の体制整備を検討する。
- ⑦ 5月～3月 グローバル人材育成連携協定新規締結の拡充を図る。
- ⑧ 5月～6月 年次事業報告書（平成26年度分）の作成・印刷・送付を行い、事業の成果を広く公表する。
- ⑨ 6月～8月 ライティングセンター主催ライティングセミナーを開催する。
- ⑩ 8月～9月 「大学教育再生加速プログラム（AP）推進委員会」にて平成26年度の事業について自己点検を行い、第三者評価委員会による点検・評価を受審し、平成27年度以降の改善計画の検討を開始する。
- ⑪ 8月～12月 英語キャンプ・中国語キャンプ・日英中トライリンガルキャンプの実施を通して、高校生へ学修機会を提供する（ピアサポート実施を含む）。
- ⑫ 9月 本学と連携高等学校合同による教員研修（FD）を実施する。
- ⑬ 2月～3月 平成28年度に実施するライティングセンター主催ライティングセミナー、教養グローバル関連科目、英語／中国語キャンプ等の案内リーフレットの作成・印刷・送付を行う。
- ⑭ 3月 ライティングセンターを新キャンパスに移設する。

杏林大学 AP テーマⅢ（高大接続）

平成 27 年度 具体的な内容

- ① 「ライティングセンター」の本格的活動により、本学学生ならびに連携高等学校生徒を対象に、集中的に英語・中国語のライティングスキルを涵養する仕組みを構築する。高等学校への出張ライティング指導も行う。留学時に要求されるライティング能力を養成するとともに、留学資料の準備等におけるサポートも行う。
- ② 各種広報媒体を充実させ、タイムリーな情報を発信することにより、本事業の周知ならびに持続的実施の基盤を構築する。
- ③ 「大学教育再生加速プログラム（AP）推進委員会」と「第 3 次中期計画実行委員会（高大連携推進実行部会）」との連動を開始し、他学部への事業拡大の基盤を整備する。
- ④ 杏林 AP ラウンドテーブルを継続開催し、SGH 指定校・SGH アソシエイト・グローバル人材育成取組校等と実質的連携協議を行い、パートナーとなる高等学校との目的の共有・実施可能性の把握を目指す。これにより高大接続・連携を強化・拡大する。
- ⑤ 本事業推進に係る教務的措置・学修成果評価法を包括的に検討し、効率的かつ効果的な事業運営の実務的基盤を整備する。「グローバルルーブリック」については、高等学校と大学が連携・協議してその評価項目・指標を開発し、評価に向けた教育目標・内容・方法についても協議する。高校生が高校時代及び大学進学後を通じ、ルーブリックを用いて、グローバル人材となる素養の成長過程を可視化・検証できるものを開発する。その際、高大接続に関する中教審答申、改革実行プランの中に示されている「学力の三要素」のうち、「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」などを指標・項目として取り入れられるよう考案する。語学力に関しては、「読む」「聞く」だけでなく「書く」「話す」も含めた四技能を、CAN-DO方式で評価する指標・項目を盛り込む。「グローバルポートフォリオ」は、ルーブリックの評価根拠となる学習成果物を蓄積していくもので、その内容物がどのようなものが相応しいか、連携協議を踏まえた上で策定していく。
- ⑥ 本事業推進に係る教務的措置・学修成果評価法を包括的に検討し、効率的かつ効果的な事業運営の実務的基盤を整備する。連携高等学校の意見を取り入れるとともに、他大学等でのアドバンストプレイスメントの状況も調査する。
- ⑦ 本事業のパートナーとなる高等学校（重点連携校）を継続選定し、グローバル人材育成連携協定を締結することにより、平成 27 年度以降の高大接続体制を整備する。
- ⑧ 「大学教育再生加速プログラム（AP）推進委員会」で本年度の事業実施内容ならびにその評価を総括することにより、年次事業報告書（平成 26 年度分）を作成する。作成した報告書を連携高等学校等に送付するとともに、その内容を本事業特設サイトでも公開し、広く事業の成果を公表する。
- ⑨ 大学生・高校生・教職員を対象としたライティングセミナーをワークショップ的に開催し、ライティングセンターの機能を広く周知させるとともに、参加者のライティング能力の向上を図る。
- ⑩ 平成 26 年度年次報告書をもとに「大学教育再生加速プログラム（AP）推進委員会」（委員長：学長）から選出されたメンバーと「外部評価委員（高等学校関係者、有識者）」において、平成 26 年度の事業の点検・評価を行い、平成 27 年度以降の改善策を検討する。
- ⑪ 連携高等学校生徒を対象とする「日英中トライリンガルキャンプ」を実施する。本学外国語学部英語学科ならびに中国語学科学生、中国からの留学生もピアサポーターとして参加し、ともにグローバル人材を目指す若者が継続的に協力し合うことができるコミュニティの形成を図る。
- ⑫ 本事業における教育内容・教育方法・教育成果等に関する発展的連携を推進するミーティングを兼ね、今後の有機的連携に向けた 合同教員研修（FD）を実施し、具体的で実質的な取り組みを策定するための意見交換を行う。
- ⑬ 平成 28 年度に実施するライティングセンター主催ライティングセミナー、教養グローバル関連科目、英語／中国語キャンプ等の各コンテンツを紹介するリーフレットを制作し、高校生・高等学校関係者への周知と参加を促す。
- ⑭ ライティングセンターを新キャンパスに移設し、平成 28 年度業務がスムーズに開始できるよう態勢を整える。

杏林大学 APテーマⅢ（高大接続）

様式9(第11条第1項関係)

平成27年度 実績・成果

別紙1

補助事業の実績	補助事業に係る具体的な成果
<p>総論(補助対象期間中に行った事業の内容の概要を記載してください。また、必ず、交付申請時の実施計画の総論と対応させるように記載してください。)</p>	<p>(学生教育の観点での成果の概要を記載してください。また、必ず、左記の補助事業の内容と対応させるように記載してください。)</p>
<p>平成26年度「大学教育再生加速プログラム」に採択された本学の取組は、「グローバル人材育成」という教育目標を共有する高等学校との連携に特化する形で、「日英中トライリンガル育成のための高大接続」を目指し、教育内容・教育方法・教育成果等の発展的連携を推進するものである。「大学による高等学校への学修機会の提供」に加え、「大学生(留学生を含む)による高校生への学修機会の提供」(ピアサポート)も実施し、留学の早期化・長期化・複数化への意識を積極的に醸成する。本学の教育・研究機能の三鷹市集約(平成28年度、井の頭キャンパス開設)により飛躍的進展が見込まれる「スーパーグローバルハイスクール(SGH)指定校・SGHアソシエイト・グローバル人材育成取組校との高大接続」を通して、本学が取組むグローバル人材育成推進事業との複合的連携を図りながら、社会の要請に応える「グローバル人材の育成」を強力に加速させていく。</p> <p>本事業採択後2年目となる平成27年度は、ライティングセンターの本格的稼働を通じて学生の留学準備の補助機能を強化するとともに、各種学内イベントの高校生への開放や大学全体への事業の波及、それによる各学部教員と高等学校との連携機会の増加を通じて、大学の教育リソースをさらに広範囲にわたって高校生に提供した。また、「杏林APラウンドテーブル」の継続的開催を通じ、本事業の活動に対する高等学校側からのフィードバックを得る機会を設け、教育効果の向上のための意見交換を定期的実施した。学内では第三者評価委員会を開催することで、事業の目的・計画の妥当性や事業の進捗・達成状況の点検・評価を行い、課題を客観的な視点から分析し、各種事業の計画・実効性の改善を目指した。高校生と大学生が共に学修する場を提供する「IELTS対策講座」や「日英中トライリンガルキャンプ」も前年度より継続して実施し、目的を共有する者が集う場での集中特訓や能動的学修を通じて、高大の参加者に対し留学に向けた強い意識の醸成を促した。定期開催の「杏林APラウンドテーブル」に加え、アドバンス・プレイズメントについて集中的に議論する「アドバンス・プレイズメント・ラウンドテーブル」を開催し、文部科学省大学振興課職員、近隣の大学や高等学校の担当教職員を招いて具体的な可能性や課題について検討した。</p>	<p>・ピアチューターの協力を得てライティングセンターのアクセシビリティを高めたことにより、利用者数・利用回数・稼働率を大幅に向上させ、留学準備を補助する強力な体制を整備された。</p> <p>・大学生対象の学内イベントであった「英語キャンプ」・「TOEIC 合宿」・「中国語キャンプ」を高校生にも開放し、「中国語キャンプ」では高校生4名が参加して大学生とともに集中的な語学特訓に従事した。</p> <p>・全学的波及を通じ、外国語学部以外の教員と高等学校との連携機会が増加したことで、高校生が語学以外の分野でも「グローバル人材」として身に付けるべき素養や知識について大学の教育リソースを活用できるようになった。</p> <p>・「杏林APラウンドテーブル」を通じて上述の「中国語キャンプ」や「日英中トライリンガルキャンプ」などの課題についての意見交換を行って改善に結びつけるとともに、高大接続のために本学で開発中の「ルーブリック」についても試験運用を実施した高等学校側からフィードバックを受け、より高校生が利用しやすいものへと改良を行った。</p> <p>・「アドバンス・プレイズメント・ラウンドテーブル」を実施したことで、当該制度に関心のある高等学校や近隣の大学の教職員担当者から有益な意見や提案を得ることができた。</p>
<p>(補助対象期間中に行った事業の内容を具体的に記載してください。また、必ず、交付申請時の実施計画と対応させるよう、箇条書きで記載してください。)</p>	<p>(学生教育の観点での成果を記載してください。また、必ず、左記の補助事業の内容と対応させるよう、箇条書きで記載してください。)</p>
<p>① 4月 ライティングセンターの本格稼働を開始し、留学に向けたサポート体制を強化させる。</p> <p>H27年4月 チューターセッションの記録を円滑にするため新たにファイルを整備し、活動をサポートするピアチューターと協力して利用学生のためのFAQを作成した。</p> <p>H27年4月 利用を検討する学生が親しみやすいよう、ピアチューターの自己紹介カードを作成した。</p> <p>H27年4月 全5名のピアチューターに対し4月27日にトレーニングミーティングを行い、サンプルとなる学生のエッセイやそれに対して行うべきフィードバックなどについて議論を行い、指導した。</p> <p>H27年4月 潜在的な利用学生に対しライティングセンターの認知度を高めるためライティングセンター専用のFacebookページを開設した。</p> <p>H27年7月～8月 Texas A&M大学のインターンシップ生10名がゲストピアチューターとして学生のライティング指導をサポートした。</p>	<p>①</p> <p>・ウェブを用いた認知度の向上やFAQ、ピアチューターの紹介カードの作成などにより、利用を検討する学生にとってアクセシビリティが格段に向上した結果、利用者数は14月から漸進的に増加し、チューターセッションの実施回数は7月には4月の約6倍である59回、10月には10倍以上である116回に到達した。</p> <p>・留学を目前に控えた学生数が最も多い外国語学部2年生の「英語作文」では「ホームステイ先のホストファミリーに手紙を書く」といった留学を意識したテーマの課題を扱っており、この授業に関する課題サポートを通じて利用学生の留学準備をサポートするとともに、留学に対する積極性を高めることに大いに貢献した。</p> <p>・ピアチューターとして参加した学生が継続的なライティング指導を通じて自身の語学力・指導力を大いに向上させた。</p> <p>・Texas A&Mからのインターンシップ生がゲストチューターとして参加していた期間は、ライティングセンターがあたかも留学先の機関であるような雰囲気が生み出され、特に留学を目前に控えた利用学生たちの興味を一層喚起し、彼らが自信を付けるための格好の場を提供することができた。</p>
<p>② 4月～3月 特設サイトの運営・更新による事業公開を推進し、学内外への事業の周知を図る。</p> <p>H27年4月～H28年3月 特設サイトを通じて、APラウンドテーブルなどの大学と高等学校の会合、ライティングセンターの活動や、高校生にも開放した「英語キャンプ」・「中国語キャンプ」、「IELTS対策講座」などの教育的イベント、高等学校教員と大学教員の教育に関する情報交換を目的としたFD/SD、高校生と大学生の交流・協働学修をテーマとした「日英中トライリンガルキャンプ」などの活動について、継続的に発信を行った。</p> <p>H27年4月～H28年3月 医学部・保健学部・総合政策学部の教員による高校生への特別指導や高等学校訪問講義についても継続的に発信し、大学全体としての取組の実績を強調した。</p>	<p>②</p> <p>・7月に杏林大学訪問中のTexas A&M大学のインターンシップ生が関東国際高等学校を訪問し、高校生と交流を行った。</p> <p>・8月の夏期休暇を活用して実施した「英語キャンプ」・「TOEIC 合宿」・「中国語キャンプ」では、「中国語キャンプ」に関東国際高等学校から4名の高校生が参加し、大学生や中国からの留学生とともに中国語の集中特訓に取り組んだ。</p> <p>・8月の夏期休暇を活用して実施したH27年度「日英中トライリンガルキャンプ」では関東国際高等学校、聖徳学園高等学校から計6名の高校生が参加し、大学生との協働学修、アクティブラーニングに取り組んだ。</p> <p>・8月に聖徳学園高等学校と順天高等学校が共同開催するイベントで依頼を受けて杏林大学の外国語学部生がコーディネータを務めた。</p> <p>・9月に実施した「高校と大学をつなぐFD/SD」では全学から43名の教職員が参加した。</p> <p>・10月から12月の土曜日を活用して実施した「IELTS対策講座・IELTS受検」では、20名の杏林大学生に高校生35名が加わり、留学に向けて高い意識を共有する高大の学習者が互いに刺激を与えつつ学びに専事する理想的な環境が実現した。</p> <p>・総合政策学部教員による聖徳学園高等学校での指導や保健学部教員による順天高等学校及び医学部教員による聖徳学園高等学校の高校生への実習など、他学部でも個別教員と高等学校との連携の機会が増大し、大学の持つ教育リソースをより広範囲にわたって高校側に提供することができた。</p> <p>・6月に新潟薬科大学から、また、11月に成蹊大学から教職員の訪問を受け、AP補助事業の現状・制度・課題などについて意見交換が行われるなど、他大学への事業の周知度も向上した。</p>
<p>③ 4月～3月 「大学教育再生加速プログラム(AP)推進委員会」と「第3次中期計画実行委員会(高大連携推進実行部会)」との連動を開始し、他学部への事業拡大の基盤を整備する。</p> <p>H27年7月 当該月に開催した第10回高大接続推進委員会より、従来より「第3次中期計画実行委員会」として設置されていた全学的な「高大連携推進実行部会」との連動を開始し、双方の委員会の情報共有の促進、協力体制の強化、プログラムの調整が図られるようになり、AP補助事業をより全学的に波及させていく環境が整った。</p>	<p>③</p> <p>・本補助事業で定期的に行っているイベント以外にも、個別に教員が高等学校を訪問する機会が増大し、総合政策学部教員による聖徳学園高等学校での指導や保健学部教員による順天高等学校及び医学部教員による聖徳学園高等学校の高校生への実習指導など、他学部教員と高校との連携機会の拡大にも結びついた。</p>

<p>④ 4月～3月 SGH指定校・SGHアソシエイト・グローバル人材育成取組校等との「杏林APラウンドテーブル」を継続実施する。</p> <p>H27年5月 第3回「杏林APラウンドテーブル」を実施し、大成高等学校、関東国際高等学校、聖徳学園高等学校、順天高等学校、三鷹中等教育学校、青梅総合高等学校に加え、新たに神奈川総合高等学校、日出国高等学校から教員が参加し、計8校12名の高等学校教員と意見交換を行った。</p> <p>H27年10月 第4回「杏林APラウンドテーブル」を実施し、聖徳学園高等学校、順天高等学校、関東国際高等学校、青梅総合高等学校、三鷹中等教育学校、日出国高等学校の7校9名の高等学校教員と意見交換を行った。</p> <p>H27年12月 第5回「杏林APラウンドテーブル」を実施し、聖徳学園高等学校、順天高等学校、都立青梅総合高等学校、関東国際高等学校、県立神奈川総合高等学校、大成高等学校、日出国高等学校に加え、新たに都立武蔵村山高等学校からも教員が参加し、計8校12名との高等学校教員と意見交換を行った。</p>	<p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3回「杏林APラウンドテーブル」においては、H26年度に実施したH26年度「日英中トライリンガルキャンプ」についての報告を行い、その成果や課題点について高等学校教員から有益なフィードバックを得ることができた。同時に、高校生に開放することが決定していた「英語キャンプ」「TOEIC合宿」「中国語キャンプ」等の教育イベントについて高等学校側からの質問を受け、各種イベントをより教育効果の高いものとするための意見交換を行うことができた。 ・第4回「杏林APラウンドテーブル」においては、H27年8月に実施したH27年度「日英中トライリンガルキャンプ」についての報告を行い、その成果や課題点について高等学校教員から有益なフィードバックを得ることができた。また、暫定版の「ルーブリック」について高校側に配布し、高校生が使用するという観点から生じ得る課題点や利点についてのフィードバックを依頼した。さらに、アドバンス・プレイズメントについて今後の発展可能性を示唆し、高等学校側にも検討準備をお願いするよう呼びかけた。 ・第5回「杏林APラウンドテーブル」においては、新たに参加した都立武蔵村山高等学校から高校側の要望を聞くことで、大学・高等学校の双方にとってより教育効果の高いイベントや研修・講習を実施するためのヒントが得られた。また、第4回「杏林APラウンドテーブル」での依頼を受け「ルーブリック」を実験的に使用した高校側から、高校生の使用に際しての課題や問題点についてフィードバックがあり、本ルーブリック改良に反映することができた。さらにアドバンス・プレイズメントに焦点を当てた複数の近隣大学及び高等学校のラウンドテーブルの実施を提案し、高等学校側に参加を呼びかけた。
<p>⑤ 4月～3月 本事業実施に係る「教務的体制の構築」(ライティングセンターと授業の連動、高校生対象大学教養レベルグローバル関連科目設置と実施に向けた学則・履修規程措置、時間割編成、新規科目設置、グローバル関連科目の土曜日開講ならびに夏季・春季休暇集中科目化、アドバンス・プレイズメントのための学則・履修規程制定等)に着手する。あわせて、教育成果測定に活用する「グローバルルーブリック」「グローバルポートフォリオ」の運用について検討していく。</p> <p>H27年4月 ライティングセンターと授業の連動に関して、特に外国語学部設置科目の中でライティングを扱う科目を選定し、科目担当者に授業の中でライティングセンターの積極的な利用を学生に奨励すること、授業の課題作成補助としてライティングセンターの利用斡旋を依頼した。</p> <p>H28年1月 高校生対象大学教養レベルグローバル関連科目設置と実施に向けた検討会議を開催し、学則・履修規程措置、時間割編成、新規科目設置案を作成した。</p> <p>H28年3月 杏林AP推進委員会(委員長:学長)において、高校生対象大学教養レベルグローバル関連科目設置案が承認され、H28年度夏季休業中の集中科目として開講予定で準備を進めることとなった。</p> <p>H28年1月 グローバル関連科目、COC関連科目の高校生への開放を行うための検討会議を開催し、外国語学部設置科目の中から科目選定を行い、それに伴う高校生の受講身分を保証するための内規案を作成した。</p> <p>H28年3月 外国語学部教授会、杏林AP推進委員会において、高校生に開放するグローバル関連科目、COC関連科目の選定案、高校生の科目受講に関する内規案が承認され、H28年度中に実施することとなった。</p> <p>H28年1月～2月 高大接続に資する教育成果測定に活用するための「ルーブリック」を、これまでの高校生による試験運用、高校教員からのフィードバックをもとに改良したものを作成した。</p> <p>H28年3月 H29年度入学試験で利用するための最終的試験運用、意見聴取を行うための機会を設け、順天高等学校、関東国際高等学校の生徒に参加してもらい、フィードバックを得た。</p>	<p>⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留学を目前に控えた学生数が最も多い外国語学部2年生の「英語作文」では「ホームステイ先のホストファミリーに手紙を書く」といった留学を意識したテーマの課題を扱っており、この授業に関する課題サポートを通じて利用学生の留学準備をサポートするとともに、留学に対する積極性を高めることに大いに貢献した。 ・高校生対象大学教養レベルグローバル関連科目を、H28年度夏季休業中(8/22～8/27の6日間予定)に英語関連科目、中国語関連科目、社会的課題関連科目の3科目を開講することとなり、その科目担当者、講義内容・シラバス等の具体的な検討を行うことになった。実現すれば、その教育機会により、高校生と大学生が立場を超えてグローバル人材への成長を目指して共に学ぶ機会が拡大し、グローバル人材育成の高大接続が可能となる。 ・高校生に開放するグローバル関連科目、COC関連科目が選定され、H28年度中に井の頭新キャンパスに高校生を受け入れるための準備を整えた。H28年度春学期は、連携高校、近隣高校を通しての高校生への周知期間とし、秋学期から高校生を実質的に受け入れる準備を進めていく。実現すれば、その教育機会により、高校生と大学生が立場を超えてグローバル人材への成長を目指して共に学ぶ機会が拡大し、グローバル人材育成の高大接続が可能となる。 ・高大接続に資する教育成果測定に活用するための「ルーブリック」を作成し、H29年度入学試験において外国語学部で用いることとなった。現行の入試区分(AO入試・推薦入試・センター試験利用入試・一般入試)のいずれで用いるかを早急に決定し、次年度行われる入試で活用する。本ルーブリックでは、多面的な能力とし「主体性」「多様性」「協働性」「課題発見・解決力」と、英語や中国語など外国語の「語学力(話す・聞く・書く・読む)」の到達度を測るもので、一人一人の進路に応じた多様な可能性を伸ばすために、幅広い資質・能力を多面的に評価し、育成していったため、学校内の活動での学習成果だけでなく、一人一人の目標や進路等にに応じて自主的に行われる学習等についても、学びの成果として評価することができるようになる。
<p>⑥ 5月 アドバンス・プレイズメントによる単位認定(日英中トライリンガルキャンプ等)の体制整備を検討する。</p> <p>H27年10月～12月 第4・5回の「杏林APラウンドテーブル」を通じて、アドバンス・プレイズメントの実現可能性、及び、それを具体化させるためのラウンドテーブルの提案を行った。</p> <p>H28年2月、文部科学省大学振興課専門職河本達哉氏、近隣の大学(亜細亜大学、成蹊大学、東京外国語大学、東京女子大学、杏林大学)関係教職員、高校(聖徳学園高校、大成高校、関東国際高校、三鷹中等教育学校)関係教員が出席し、「アドバンス・プレイズメント・ラウンドテーブル」を開催した。</p>	<p>⑥</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「アドバンス・プレイズメント・ラウンドテーブル」において、当該制度に関心のある高等学校や近隣の大学の関係者から有益な意見や提案を得ることができた。特に高等学校側からの、大学受験を控えた多忙となりがちな高校2～3年生に対し、アドバンス・プレイズメントの制度がどのようなインセンティブを持ち得るか重要な点についての指摘を受け、既に推薦入試やAO入試で早い段階に大学受験のプレッシャーから解放された高校生が活用できるものから始めていくのが現実的であるという点に関して、高校側と大学側の一定の合意形成が得られた。
<p>⑦ 5月～3月 グローバル人材育成連携協定新規締結の拡充を図る。</p> <p>H28年1月 杏林大学三鷹キャンパスにおいて、関東国際高等学校との高大連携協定を締結し、今後も連携を深めていくことを確認した。</p>	<p>⑦</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関東国際高等学校は英語に加え、中国語、ロシア語、韓国語といった近隣諸国の言語の習得にも注力しており、特に本学の中国語教育のリソースをより有意義な形で提供していくことで、英語に加えプラス1の外国語を学ぶ高校生が、同言語を専門とする大学生との交流や協働学習を通じて、学修意欲をさらに高め、将来の展望を固めるための基盤が整備された。
<p>⑧ 5月～6月 年次事業報告書(平成26年度分)の作成・印刷・送付を行い、事業の成果を広く公表する。</p> <p>H27年5月～6月 事業報告書(平成26年度分)が完成し、特設サイトで公開するとともに、外国語学部・総合政策学部の全専任教員、医学部・保健学部の全教授に1部ずつ配布した。また、愛知県から北海道までのSGH校及びUSGHアソシエイトの高等学校100校に送付した。</p>	<p>⑧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広く杏林大学のAP事業の取組を大学の内外に周知することで、学内では医学部・保健学部・総合政策学部の教員による高校生への特別指導や高等学校訪問講義などがより頻繁に行われるようになり、大学生や高校生にとって他分野での協働学習が可能となると同時に、新潟県科大や成蹊大学から本事業に関連して教職員の訪問を受けるなど、杏林大学のAP事業の取組の学外での認知度も大いに向上した。
<p>⑨ 6月～8月 ライティングセンター主催ライティングセミナーを開催する。</p> <p>H27年12月 聖徳学園高等学校から国際センター長と6名の高校生がライティングセンターを訪問し、ライティングセンター特任講師とピアチューターがディスカッションを中心としたワークショップ型のセミナーを実施した。</p>	<p>⑨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加高校生はトピックの絞り方や文章化の目的といった基本的事項から、リサーチにおけるリテラシーに至るまで、グループディスカッションを通じて能動的に学習し、4月から参加しているグローバルセミナー(ベトナムでの研修を含む)での経験を英語でのレポートにまとめるにあたって大きな足掛かりを得た。 ・ピアチューターとして参加した大学生側も国際的な諸問題に高い関心を持つ高校生に刺激を受けつつ、ディスカッションを通じ、ライティングの基本を改めて確認するとともに指導に対するさらなる自信を深めた。
<p>⑩ 8月～9月 「大学教育再生加速プログラム(AP)推進委員会」にて平成26年度の事業について自己点検を行い、第三者評価委員会による点検・評価を受審し、平成27年度以降の改善計画の検討を開始する。</p> <p>H27年9月 杏林大学三鷹キャンパスにて3人の外部評価委員として、中学・高等学校の校長(高校教育全般)、大学教授(英語関係)、高校教諭(中国語関係)を招いて大学教育再生加速プログラム(AP)テーマⅢ(高大接続)の第三者評価委員会を開催した。</p> <p>H27年10月 高大接続推進委員会にて第三者評価書が共有され、外部評価委員より受けた指摘や批判に基づき、具体的な改善案の検討が行われた。</p>	<p>⑩</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学生と高校生が共に学修する場であるH26年度「日英中トライリンガルキャンプ」などのイベントについて、語学技術のみに拘泥せず、異文化理解や自国の理解の深化につながるようなプロジェクト型の企画も設けるべきである、という指摘を受けたが、これはまさにH27年8月に実施したH27年度「日英中トライリンガルキャンプ」において新たに取入れた要素であり、当該イベントの教育効果向上に向け、正しい方向づけを行うことができているとの認識・自信が得られた。 ・教員や事業担当者がトップダウンで用意するイベントに加え、高校生(大学生)の声を吸い上げ、ポイントアップでプログラムを考案することの重要性について指摘があったことを受け、各種イベントにおいて高校生から回収したアンケート結果等の内容をより一層反映するプログラムの充実を図るとともに、キャンパス移転を機に高校生に開放するライティングセミナーの実施回数や規模を増大させ、学園祭でも大学生と高校生が共に参加するスピーチコンテストを企画するなど、高校生自身の意見を積極的に取り入れていく体制を整備した。

<p>⑪ 8月～12月 英語キャンプ・中国語キャンプ・日英中トライリンガルキャンプの実施を通して、高校生へ学修機会を提供する(ピアサポート実施を含む)。</p> <p>H27年8月 学内のイベントである「英語キャンプ」・「TOEIC合宿」・「中国語キャンプ」を高校生にも開放し、中国語キャンプには関東国際高等学校から計4名の高校生が参加し、33名の杏林大学生とともに集中的な中国語の特訓を行った。 H27年8月 H27年度「日英中トライリンガルキャンプ」を多摩永山情報教育センターで実施し、聖徳学園高等学校と関東国際高等学校から計6名の高校生が参加し、19名の杏林大学生とともに協働学修、アクティブラーニングを行った。</p>	<p>⑪</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「中国語キャンプ」を通じて、中国語を一日中集中的に特訓する、あるいは、中国からの留学生と実際に中国語を用いて会話をする、という大学ならではの教育機会を提供することで、参加した高校生が中国語の実践的価値の重要性を改めて認識すると同時に、留学に向けた課題点を発見する契機となった。 ・「日英中トライリンガルキャンプ」の初日には、英語学科・中国語学科・観光交流文化学科の大学生がそれぞれの学科の強みを活かして高校生とグループワークを行い、日本でのインバウンド観光客にとって魅力的な旅行プランを計画し発表するという活動を実施した。大学生と高校生の双方が現在のインバウンド観光客の増加や各国からの観光客の多様なニーズ等について知識を深めるとともに、その知識を自らのアイデアと組み合わせる独自の企画を作り出すという極めて能動的な学修に従事した。 ・「日英中トライリンガルキャンプ」の2日目には、英語学科に所属する留学経験のある大学生が自身の経験についてプレゼンテーションを行い、参加高校生に留学の価値を強調し、それに向けての意欲を高める場を提供した。
<p>⑫ 9月 本学と連携高等学校合同による教員研修(FD)を実施する。</p> <p>H27年9月 杏林大学八王子キャンパスにて「第2回 高校と大学をつなぐFD/SD」を開催した。神奈川県立神奈川総合高等学校の菅原喜一教諭と関東国際高等学校の黒澤眞爾副校長からそれぞれ講演があり、その後、活発な質疑応答・議論が行われた。</p>	<p>⑫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・菅原教諭の講演では、高等学校での英語教育の実践方法やその工夫が語られ、大学教職員が現在の高等学校において求められている教育方法の工夫や変化しつつある英語教育の目的について、自身の大学での教育業務にも応用可能性のある有意義な知見を得る契機となった。 ・黒澤副校長の講演では中国語を中心として高等学校の教育現場での英語以外の外国語の教育についての現状が説明され、英語に加えプラス1の言語として中国語や他の外国語を学んでいくことの重要性について改めて認識を強める機会が得られた。
<p>⑬ 2月～3月 平成28年度に実施するライティングセンター主催ライティングセミナー、教養グローバル関連科目、英語／中国語キャンプ等の案内リーフレットの作成・印刷・送付を行う。</p> <p>H28年1月 H28年度に実施するイベント案内のリーフレット作成について業者と打ち合わせを行い各イベントのスケジュールを確定した。 H28年2月 校正を行いイベント案内のリーフレットが完成した。1,000部印刷し、重点連携校9校に各30部、SGH等を含む高校約90校に各3部、及びAP事業をしている関係大学にも送付した。</p>	<p>⑬</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本リーフレットの作成・印刷・送付(配布)により、平成28年度の本事業の予定について、重点連携校に周知徹底を図るとともに、平成28年度の本学新入学生に対し本事業の概要及び主要プログラムの具体的内容について入学段階から明確に提示することが可能となる。
<p>⑭ 3月 ライティングセンターを新キャンパスに移設する。</p> <p>H28年3月 八王子キャンパスから井の頭新キャンパスへの移転を機に、ライティングセンターの全設備についても新キャンパスの所定の場所へと移設した。</p>	<p>⑭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・八王子キャンパスから井の頭キャンパスへの移転により立地が大幅に向上することで、近隣の高校から定期的に訪問する高校生の増加や、ライティングセミナーなどのライティングセンターが実施する学修機会への高校生の参加率の向上も見込まれ、グローバル人材として活躍することに高い関心を持つ大学生と高校生が協働的に学修する環境がより一層整うこととなる。

(注) 交付申請書の「補助事業の目的・必要性」、「本年度の補助事業実施計画」と対応させて分かり易く記入すること。